

北信教育事務所だより



～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

令和6年2月19日 第7号



#問い 子供の資質・能力を全職員で育成するためのポイントは何でしょうか

今年度も残りわずかとなりました。年度末から新年度はじめは、学校教育目標具現のために、先生方で十分に話し合うことが重要です。

本号では、先日行われた第3回研究主任研修会から、研究主任の先生方の語り合いを紹介します。参考にいただき、校内で語り合う場を設けてみてはいかがでしょうか。

北信地区第3回研究主任研修会より

研修1より ♣実践をひらき合い、語り合う♣

今回の研修会では、探究する授業を考える際に大事な視点である「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をテーマに、2つのグループに分かれ、4校の研究主任の先生方に日々の実践を以下のような内容で紹介していただきました。

信濃町立信濃小中学校 伊藤 真紀 先生	・ICT活用で「日常の実践＝研修」	
『先生たちも個別最適・協働的に学ぶ』	・複線型授業への挑戦	・多様な研修体制
長野市立鍋屋田小学校 吉澤 裕一 先生	・探究する日常	・学習課題と振り返りの積み重ね
『探究する子どもの学びを支える教師の在り方』	・子どもの問い・願いを追究にする教師の支援	
長野市立松代中学校 近藤 純 先生	・自由進度学習	・自立した学習者
『自ら「問い」や「願い」をもち、学び方を選択し追究していく授業』	・他教科の様子からの学び合い	
千曲市立八幡小学校 北村 由実 先生	・「わからない」が言える	・伝え合って学びを深める
『「伝え合い」「ふりかえり」を両輪として学びを深める』	・自分の現在地を知る振り返り	

【参加者感想より】



どの学校も「学校としてここを目指す」などが決まっていて素敵だと感じました。一人一人の考えが異なるからこそ学校として何をを目指すのか、更にチーム力を高め子供にかえる研究にしていきたいです。



自由進度学習について、もっと学ばないといけないと思いました。まずは、知ること、わかること、メリット・デメリットを知るために、研究会の時間に研修をしていきたいです。



日常の実践を研修とし、授業を見合うだけでなく、チャットを活用した研修など、先生方に負担なく、でも知りたい学びたい向上したいをつなげる研究にしていきたいです。

多くの研究主任の先生方が、実践発表と自校の今年度の研究推進とを重ねて振り返り、成果と課題を踏まえて、次年度のさらなる一歩を考えていました。先生方の日常の授業では、どのように「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に関する取り組みが進められているのでしょうか。次年度のことを考えるこの時期に、お互いの実践をひらき合い語り合う場を設定し、それぞれの強みや、うまくいかないことを共有して、学校としての方向を考えてみてはどうでしょうか。

ポイント



<本号の主な内容>

- ☆第3回研究主任者研修会
- ☆1年次・2年次プログレス研修会
- ☆生涯学習かわら版

頁

- 1～2
- 3
- 4



今、そしてこれからの自身の役割を考える

○2年次プログレス研修 1月18日(木) ○1年次プログレス研修 1月23日(火) より

今回の研修では、「1年間の取組を振り返り、自分の強みと課題を整理し、次年度以降の自身の目指す姿を明らかににする」ことをねらいとし、グループ討議や保坂学校教育課長の講話を通して考え合いました。



2年次研修の様子



1年次研修の様子



課長講話の様子

【まとめ記入用紙より】

1年次プログレス研修

2年次プログレス研修

研修を通して見えてきた自身の強みと課題

場の工夫を考え、少しずつ対話的な活動が見られるようになってきた。1年間の実践をベースに、先生方からお聞きした工夫を取り入れながら、より一人ひとりの課題を把握した上で授業を進められるようにしたい。



2年目となり心に余裕ができ、多面的に物事を捉えられるようになってきた。一方で、知らないうちに考えが偏り、授業や生徒指導においてパターン化してしまっている面があることにも気づくことができた。



これから、どんな教師を目指すのか

生徒が自分の力で考える、自分から動く力がつけられる教師になりたいと思う。そのために、生徒同士で話し合う場を設け、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を目指したい。



より多くの場面で子どもたちと学ぶ楽しさを共有できる教師になりたい。分かる楽しさ、不思議に出会う楽しさ、いろいろな学ぶ楽しさを一緒に体感できるように力をつけていきたいし、子どもの見方を磨きたい。



初任、2年目の先生方に期待される役割は、教科指導や生徒指導について基礎的・基本的な力を身に付け、実践力を磨くことです。研修では、自己課題の解決に向けて取り組んできた実践を語り合う中で、自分自身を見つめ直し、教師としてさらに成長していくために自分が目指す姿を明確にしていきました。先生方の姿勢は、どの年代の先生方にとっても参考になるのではないのでしょうか。

県では、長野県教員育成指標を策定しています。長野県の教員に求められる資質能力が右図のように示されており、本研修でも活用しました。ぜひ、参考にいただき、全職員ですすめる「チーム学校」づくりに取り組んでいきましょう。



各キャリアステージにおける教員育成指標はコチラ



北信教育事務所の生涯学習課では「社会教育」「スポーツ振興」「社会人権教育」を推進しています。今回は「第2回わくわくスポーツセミナー」の様子を紹介します。

「子どもにとって遊ぶとは生きること」

2月10日(土)長野日本大学小学校を会場に「子どもが夢中になる運動遊び」をテーマにセミナーを開催しました。

講師としてお招きした渡邊真也さん(長野日本大学小学校)の、「「あそび」は、食べることや寝ることと同様に、人間が人間として成長するためにはなくてはならないもの」という言葉からセミナーが始まり、講義・実技講習を行いました。



じゃんけん遊び



片足ずもう



王様と家来



バランス崩し



家族いっぱい



色々キャッチ



ぜんいんばれー



講義の様子

参加者の感想



子供にとって遊びがいかに大切か学ぶことが出来ました。思わずあれもだめ、これもだめと制限してしまったり、これやるよ！と大人主導で遊びをしてしまっていたと感じる。自分のやり方を見直したい。(保育士)



これまでの自分を振り返り、子どもたちに申し訳ない教師主導の授業をしていたと反省しました。夢中になって遊び、その楽しさの中に様々な運動や学びの要素が組み込まれていることを感じました。教師としてそれらを見とれるようになりたいです。(小学校教員)



コロナ禍と就職が重なったこともあり、実技のある講義は社会人になってから初めてでした。「心が動いて、初めて体が動く」という言葉、本当にそうだなと今日の自分を振り返って強く感じました。(保育士)



来週の授業からやってみたいと思う内容が盛りだくさんで、何より体を動かしていた自分自身が楽しかったです。遊びや楽しさの中にもつきたい力は何かというところを自分の中にしっかりもって、子どもたちと運動に関わっていきたいなと感じました。(小学校教員)